

Title	長沼直兄の日本語教育理念及び指導方法に関する研究
Sub Title	
Author	野田, 康世(Noda, Michiyo)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2012
Jtitle	日本語と日本語教育 No.40 (2012. 3) ,p.159- 159
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20120300-0159">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20120300-0159</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

〔日本語教育学講座修了論文〕

## 長沼直兄の日本語教育理念及び指導 方法に関する研究

野田 康世

長沼直兄は 1894 年、日清戦争が始まった年に生まれ、太平洋戦争、第二次世界大戦、戦後の復興、そして現代へと移り変わる時代の流れの中で、生涯を通じて一貫した教育理念をもって日本語教育を実践した。時代に流されず、目標とする日本語教育を追い求め、研究と経験を重ねることによって自らの指導方法を確立していった。この指導方法はナガヌマ・メソッドと呼ばれ、アメリカを初めとする世界各国へと普及し、現代でも改良直接法や問答法として受け継がれている。その根底にある長沼の教育理念と指導方法は、長沼の言葉や教材の中に見ることができる。また、長沼の周りでそれを引き継いだ教師たちの言葉からも知ることができる。それらの言葉や教材を、時代背景や人物などが長沼に与えた影響と重ね合わせながら調査し、そこに見られる理論と指導方法を一つずつ取り上げる。そして、その全体像から長沼の日本語教育の特徴をまとめ、教育理念を定義することがこの研究の目的である。

この研究により明らかになったことは、長沼はパーマーという人物との関わりによって生涯変わらない教育理念を確立させたということである。また、米国大使館で日本語を教えるという特殊な環境も、長沼が自由な発想で日本語教育を実践することができる要因となっていた。長沼は、日本語教育を始めたばかりの頃にそのような影響を受け、何の先入観もないまま日本語教育に対する確固たる姿勢を身につけた。そして、長沼の指導方法と教材作りを分析すると、その基本理念がすべて学習者の立場に立っていることがわかった。長沼は、授業における指導から自宅学習まで一連の作業が教育であると考えている。以上のことより、長沼の教育理念とは学習者のための日本語教育の実践であると定義した。

本論は次のような構成になっている。第 1 章で、長沼の活動内容と業績を見ながら時代背景や関わった人物などを整理し、長沼の日本語教育の確立に際して与えた影響について考察する。第 2 章では、長沼の教授理論と指導方法に関する先行研究を参照するとともに記録に残された長沼の言葉や講習会での講義内容を整理し、その特徴をまとめる。第 3 章では、その分析結果を検証するため、長沼が作成した教材を調査する。入手できる限りの教材を種類ごとに分類し、それぞれの内容が長沼の理論と合致しているかどうか、また、指導方法の実践において問題がなかったかを考察する。以上の調査と分析の結果を基に、第 4 章では、長沼の指導方法の特徴と有効性を現代の日本語教育と比較しながら検証し、第 5 章の結論において長沼直兄の教育理念を定義する。